

事前評価個表

整理番号	19
------	----

地域（地区）名	<small>きたかがわじょうりゅう</small> 北上川上流地域	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	岩手県	対象市町村	盛岡市ほか5町村
事業実施期間	H23 ~ H27（5年間）	事業実施主体	県、町村、森林組合等

事業の概要・目的	<p>北上川上流地域は、県のほぼ中央部に位置し、東は北上高地、西は奥羽山脈で秋田県と接し、その中間に北上川流域の平坦地を有する1市4町1村を包括する地域である。</p> <p>本地域の森林面積（164,077ha）のうち民有林面積は、約6割にあたる102,212haで、人工林面積は、45,450ha、人工林率は44%となっている。</p> <p>人工林の齢級構成は、8齢級をピークに7～12齢級が全体の約72%を占めているなど、森林資源が成熟しつつあるものの、間伐が必要な4～9齢級の森林が50%を占めており、健全な森林を育成していくうえでも間伐等の森林整備が必要となっている。</p> <p>しかしながら、近年、林業採算性の低下や森林所有者の経営意欲の減退により、手入れが遅れた森林が増加するなど、森林のもつ水源かん養などの公益的機能の発揮に支障をきたすおそれがある。</p> <p>このため、北上川上流地域森林環境保全整備事業計画を作成し、これに基づき、意欲と実行力を有する林業事業者等による、集約化された計画的な森林施業の実施を促進する必要がある。</p> <p>本計画に基づき、効率的な施業に不可欠な森林作業道の整備と搬出間伐や再造林等の森林整備を一体的・計画的に実施し、健全な森林の育成を促進することにより、森林の持つ公益的機能の発揮が可能となるものである。</p>
事業内容・事業費	<p>森林整備：4,323ha 人工造林、下刈り、雪起こし、除伐、間伐、森林作業道等</p> <p>総事業費：1,033,455千円</p>
費用対効果分析結果	<p>B/C = 3.28 (総便益(B) = 6,217,620千円、総費用(C) = 1,891,004千円)</p>
評価結果	<p>必要性：森林整備が必要な森林が多く存在することから、森林の公益的機能を高めるためにも事業実施は必要不可欠である。</p> <p>効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれることから、事業の効率性が認められる。</p> <p>有効性：森林資源の有効活用の観点、併せて森林整備による水源かん養、土砂流出防備、また多様な森づくりによる生物多様性等公益的機能の維持増進の観点から有効である。</p> <p>本計画では、森林の多面的機能を発揮するために必要な森林整備が適切に計画されている。また、効率性、有効性も認められることから、森林環境保全整備事業計画として実施することが適当である。</p>

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

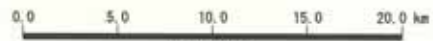
事業名: 森林環境保全整備事業
 地域名: 北上川上流

岩手県
 (単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	1,741,127	
	流域貯水便益	572,238	
	水質浄化便益	976,917	
山地保全便益	土砂流出防止便益	1,574,432	
環境保全便益	炭素固定便益	555,865	
木材生産便益	木材生産確保・増進便益	797,041	
総 便 益 (B)		6,217,620	
総 費 用 (C)		1,891,004	
費用便益比	$B \div C = \frac{6,217,620}{1,891,004} = 3.28$		

森林環境保全整備事業 北上川上流地域（岩手県）概要図

凡例	
計画区界	
事業区域	
森林整備	



1:380000

この地図の作成資料は、国土地院の2万1千分の1地形図を使用したものである。（国土地院資料 平19地院、第186-22368号）